

令和元年度サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議  
令和元年（2019年）11月29日

## ICRI及びGCRMNを中心とした 国際的動向



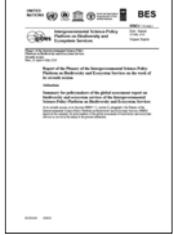

**環境省**  
 Ministry of the Environment

自然環境局 自然環境計画課

## 世界の海洋生物多様性の評価

### IPBES地球規模アセスメント（2019）

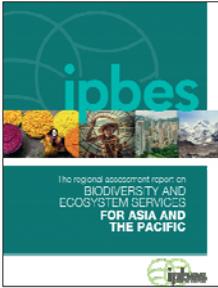
- サンゴ礁における生きているサンゴの被覆率は**1970年代以降おおよそ半分に**。
- 気候変動**が他の損失要因を増幅するため、この数十年、サンゴの**死滅は加速**。
- サンゴ礁はとりわけ気候変動に脆弱で、**1.5°Cの気温上昇**では元の状態の**10-30%の被覆率**、**2°Cの気温上昇**では**1%未満の被覆率**となると予測。



### IPBES生物多様性と生態系サービスに関する地域評価：アジア・オセアニア地域（2018年3月承諾）

アジア・オセアニア地域に関して、

- 2048年までに水産資源が枯渇する可能性あり
- サンゴ礁は**2050年までに90%が著しく劣化**すると推定



## ICRIとは

### ICRI (International Coral Reef Initiative)

- イクリ：国際サンゴ礁イニシアティブ
- 政府 + 国際機関 + NGOのパートナーシップ
- サンゴ礁生態系の保全を目的とした国際協力の枠組み
- 1994年に開始

<ICRIの主な活動>

「**行動の呼びかけ** (Call to Action)」及び  
「**行動の枠組み** (Framework for Action)」に基づき、次の活動を実施。

- 世界/地域/国レベルでのサンゴ礁保全活動の推進のための、各国政府、国際機関及びNGO等の間での**連携・協調の促進**
- 地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク(**GCRMN**)の構築等によるサンゴ礁の**研究、モニタリングの推進**
- ワークショップ開催やマニュアル作成による**途上国の能力強化**
- 生物多様性条約の愛知目標の後継目標 (**ポスト2020目標**) のサンゴ礁に係る検討・提案 等


**ICRI International Coral Reef Initiative**

ICRIウェブサイト  
<https://www.icriforum.org/>

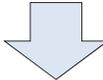
## ICRIとは

### ICRI (International Coral Reef Initiative)

- イクリ：国際サンゴ礁イニシアティブ
- 政府 + 国際機関 + NGOのパートナーシップ
- サンゴ礁生態系の保全を目的とした国際協力の枠組み
- 1994年に開始

<設立当初のメンバー>

米国、英国、オーストラリア、ジャマイカ、スウェーデン、  
**日本**、フィリピン、フランス - 8ヶ国



<現在のメンバー>

政府、国際機関、NGO等 - 計70団体以上に拡大


**ICRI International Coral Reef Initiative**

## ICRIとは

ICRI (International Coral Reef Initiative)

- イクリ：国際サンゴ礁イニシアティブ
- 政府 + 国際機関 + NGOのパートナーシップ
- サンゴ礁生態系の保全を目的とした国際協力の枠組み
- 1994年に開始

＜事務局＞

- ボランティア国による2年任期の持ち回り制
- 2001年から基本的に先進国 + 途上国のペア
- 総会の開催及びそれに係る文書の作成を担う

任期	事務局	任期	事務局
1994～1996年	米国	2007～2009年	米国、メキシコ
1996～1998年	豪州	2009～2011年	フランス、サモア
1999～2000年	フランス	2012～2014年	豪州、バレーズ
2001～2002年	スウェーデン、フィリピン	2014～2016年	日本、タイ
2003～2005年	英国、セイシェル	2016～2018年	フランス
2005～2007年	日本、パラオ	2018～2020年	豪州、モナコ、インドネシア

## GCRMNとは

GCRMN (Global Coral Reef Monitoring Network)

- 地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク
- 1995年にICRIのもとに設立
- サンゴ礁モニタリングに携わる研究者のネットワーク
- サンゴ礁保全管理のためにサンゴ礁の現状を発信

環境や文化特性によって、世界のサンゴ礁を15の地域に区分  
→日本は「東アジア地域」に区分

日本は、毎年度**東アジア会合**を開催し、モニタリングの取りまとめを牽引

## GCRMN東アジア会合

概要

- 日本主催
- 2017年2月以降、これまで計4回開催
- 近年の地球規模の白化状況も踏まえ、東アジアのデータを地球規模解析に提供することを目指している

＜直近の会合＞

- 日程：2019年6月19～21日
- 場所：マレーシア（パチヨ）
- 各国のサンゴ礁モニタリングデータの解析結果について共有され、今後解析を行い地球規模の解析に提供することとなった。

## GCRMNサンゴ礁現況報告書

概要

- 地球規模、地域および地方の各レベルにおけるサンゴ礁の現状と傾向に関する調査結果をとりまとめ
- 上記を公表し、各国の環境保全機関などがサンゴ礁の持続的な利用と保全に役立てられるようにしている

＜世界版サンゴ礁現況報告書＞      ＜東アジア版サンゴ礁現況報告書＞

2008年  
(次回版を2020年に作成見込み)

2018年

ICRI総会	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回開催</li> <li>サンゴ礁生態系の保全に関する状況を共有し、決議を採択等</li> </ul>
	<p>&lt;第34回総会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日 程：2019年12月2～7日（※ワークショップ等を含む日程）</li> <li>場 所：オーストラリア（タウンズビル）</li> <li>主な議題：メンバーの追加 行動計画2018-2020の実施状況 メンバーからの報告 ポスト2020目標について 等</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○前回総会で、関心を有するメンバー（含む日本）によるアドホック委員会を設置。</p> <p>○生物多様性条約事務局に対する提案に向け、愛知目標の後継目標（<b>ポスト2020目標</b>）のうちサンゴ礁に係るものを検討中。</p> </div> 